

<議案資料>

恵那市公共施設再配置計画

平成28年3月

恵 那 市

目 次

1.	はじめに.....	1
2.	人口状況.....	2
2.1.	人口推移と将来予測.....	2
2.2.	地域別人口減少予測.....	3
2.3.	地域別年齢階層別人口.....	4
3.	財政状況.....	6
3.1.	歳入の予測.....	6
3.2.	歳出の予測.....	8
4.	公共施設状況.....	9
4.1.	施設規模.....	9
4.2.	地区別公共施設配置状況.....	11
4.3.	施設の経費（普通会計分）.....	21
4.4.	施設の維持管理・建替え・改修にかかる費用.....	22
5.	課題の整理と公共施設再配置の必要性.....	23
6.	公共施設再配置の指針と目標.....	24
6.1.	基本指針.....	24
6.2.	サービスの提供方法の検討.....	25
6.3.	複合化の推進.....	26
6.4.	公共施設受益者の範囲を考慮した配置.....	28
6.5.	再配置による公共施設保有量の目標.....	32
6.6.	公共施設小分類別基本指針.....	33
	行政系施設 庁舎.....	34
	行政系施設 消防署所・消防団.....	36
	市民文化系施設 集会施設.....	38
	市民文化系施設 文化センター・文化ホール.....	40
	市民文化系施設 その他文化施設（美術館・資料館）.....	42
	保健・福祉系施設 社会福祉施設.....	44
	保健・福祉系施設 高齢福祉施設.....	46
	保健・福祉系施設 保健センター.....	48
	子育て支援施設 こども園.....	50
	子育て支援施設 児童福祉施設.....	52
	産業系施設 農業施設.....	54
	産業系施設 林業施設.....	56
	産業系施設 商工施設.....	58
	産業系施設 観光施設.....	60
	都市整備系施設 都市公園.....	62
	都市整備系施設 その他公園.....	64
	公営住宅.....	66
	学校教育恵施設 小学校・中学校.....	68
	学校教育恵施設 学校給食センター.....	70
	学校教育恵施設 教職員住宅.....	72
	社会教育系施設 コミュニティセンター・市民会館・図書館.....	74
	レクリエーション・スポーツ系施設.....	76
	医療系施設 医療施設.....	78
	インフラ系施設 上水道施設.....	80
	インフラ系施設 下水道施設.....	82
	供給処理系施設 環境衛生施設（ゴミ・し尿処理、火葬場）.....	84
	供給処理系施設 墓地.....	86

4.2.1. 地区別公共施設一覧

	庁舎	消防署・消防団	集会所	文化センター・文化ホール	その他文化施設	社会福祉施設	高齢福祉施設	保健センター	こども園	児童福祉施設	農業施設	林業施設	商工施設	観光施設
大井町 長島・東野エリア	大井町	国連沢消防器具庫 大井南コミュニティ消防センター 大井第3コミュニティ消防センター	馬場町市民の会		中山道広義寺 中山道ひし屋資料館	東郷市福祉センター	恵光園 デイサービスセンター 老人福祉センター		城ヶ丘こども園 大井こども園	にじの家 大井児童センター 小嶋児童遊園			東郷駅前駐車場	タウングラザ東郷
	東郷市役所 東郷市教育委員会	東郷市防災センター 東郷市消防本部・東郷消防署 中野コミュニティ消防センター 正栄消防器具庫 永田ミニコミュニティ消防センター 中野ミニコミュニティ消防センター 本郷消防器具庫	共同福祉会館 中野会館 中野自治会館	東郷文化センター				東郷市保健センター	長島こども園 やまびここども園 二重こども園	中野児童センター こども元気プラザ 正栄こども児童遊園 中野児童遊園	アクリパーク東郷総合管理センター 小沢ため池			
	東野	東野コミュニティ消防センター 小野川消防器具庫 安土消防器具庫			おおむね資料館				東野こども園					国民市会館東郷山荘
	三郷町	三郷コミュニティ消防センター 野井ミニコミュニティ消防センター 徳栄コミュニティ消防センター 竹折コミュニティ消防センター 武蔵コミュニティ消防センター 美濃消防器具庫 沖田消防器具庫					明日香荘(特養・ショートステイ) 明日香荘(デイサービス) 明日香荘(ケアハウス)		みさここども園		アグリパーク東郷ふれあい広場 南勢農業者ヘルピングセンター			道の駅 ちっせいみさこ
笠置・中野方・飯地エリア	武蔵町	竹折コミュニティ消防センター 武蔵コミュニティ消防センター 美濃消防器具庫 沖田消防器具庫 山岡ミニコミュニティ消防センター							武蔵こども園				武蔵駅前自転車駐車場	
	笠置町	笠置復興事務所 笠置ミニコミュニティ消防センター 笠置コミュニティ消防センター 柳瀬ミニコミュニティ消防センター 河合ミニコミュニティ消防センター									田園空間ビジターセンター			
	中野方町	野瀬ミニコミュニティ消防センター 中野方コミュニティ消防センター 町切ミニコミュニティ消防センター 飯地ミニコミュニティ消防センター 杉の沢消防器具庫 沢尻ミニコミュニティ消防センター 南消防器具庫 西山消防器具庫							中野方こども園					不動の滝農産物直売所
	飯地町								飯地こども園		しでこふしの里民楽館			
岩村・上矢作エリア	岩村町	岩村復興事務所 岩村消防署 本町消防器具庫 大逢野消防器具庫 富田消防器具庫 飯沼消防器具庫 飯沼開消防器具庫	飯沼会館 ふるさと富田会館 上町まちなか交流館		歴史資料館 民俗資料館 岩村城遺跡御殿茶室 木村邸資料館 工芸の館土佐屋 江戸城下町の館柳川 いわむら楽園の館 旧石橋家住宅 岩村城址公園 岩村藩政資料館	岩村福祉センター	岩島いきがい会館 岩村福祉センター(デイサービス)	岩村保健センター	岩村こども園				岩村駅前自転車駐車場	地域特産物直売所 まち並みふれあいの館
	上矢作町	岩村消防署上矢作分署 横道大門消防器具庫 横道平井消防器具庫 遠原消防器具庫 小笠原消防器具庫 高田消防器具庫 飯沼消防器具庫 本郷消防器具庫 遠原消防器具庫 下消防器具庫 小田子消防器具庫				福寿荘(特養) 福寿荘(ショートステイ) 福寿荘(デイサービス) 栗隈の里	総合保健福祉センター	上矢作こども園		大船牧場(特養中) 泉野集落センター 福寿の里ふれあいセンター	林業センター	上矢作共同作業所	道の駅 ラフォーレ福寿の里 地域資源館飯沼大橋 福寿の里モンゴル村 コテージかわせみ 緑沢コテージ	
	山岡町	山岡復興事務所 山岡コミュニティ消防センター 山岡コミュニティ消防センター 久保コミュニティ消防センター 下手向コミュニティ消防センター 釜屋コミュニティ消防センター 田代コミュニティ消防センター 原消防器具庫	山岡福祉改善センター 山岡会館	郷土史料館	山岡健康増進センター	デイサービスセンターゆとり ショートステイほのぼの荘 岩村デイサービスセンター	山岡こども園 おひさま 山岡学童保育所	兼平防犯ダム 田沢防犯ダム コテージ石橋花 山岡花・野瀬苗圃苗圃施設 山岡農村婦人の家			山岡駅前自転車駐車場 花白駅前自転車駐車場 小原川ダム右岸広場		道の駅 おばあちゃん市 陶業文化センター 陶業ギャラリー ヘルシーハウス山岡 特産品展示施設	
	明智町	明智復興事務所 明智消防署 市場消防器具庫 東方コミュニティ消防センター 門野消防器具庫 野添コミュニティ消防センター 新町消防器具庫 大東消防器具庫 宮良ミニコミュニティ消防センター 大田コミュニティ消防センター 上田消防器具庫 向東消防器具庫 柳井消防器具庫	生活改善センター ふれあい会館吉良 相違集会所	明智かえでホール 明智文化センター	市指定文化財旧三宅家 明智ひとつばたこ	回想法センター ひまわり 明智福祉センター(デイサービス)	明智保健センター	明智こども園 吉田こども園			大正村明智の森キャンプ場 日本大正村資料館 大正資料館 大正おもちゃ資料館 大正ロマン館 大正時代館 大正の館 船岡館 吉田一みたかや 日本大正村校舎 善風庵 おんさい工房 大正村コテージこまねび 大正村広場 明智駅前プラザ 明智駅前レクリエーションセンター くしはら温泉さきほりの湯 コテージふるさと チャレンジハウス新井手			
車原	車原復興事務所	高上消防器具庫 相違消防器具庫 閉蔵消防器具庫 川ヶ渡消防器具庫 特選消防器具庫 木郷消防器具庫 大車消防器具庫 松本消防器具庫 中沢消防器具庫 北沢消防器具庫		サンホールくしはら 碑立館	車原福祉センター	車原福祉センター(デイサービス)		車原こども園		健康管理センター 田舎じまん館 朝市広場ちくさ				

※ 各地区で同色施設が複合施設となります。

※ 見え消し施設は移譲・廃止施設となります。

平成28年1月1日 現在

4.2.1. 地区別公共施設一覧

	都市公園	その他公園	公営住宅	小学校・中学校	学校給食センター	教職員住宅	コミュニティセンター 市民会館・図書館	スポーツ施設	医療施設	上水道施設	下水道施設	環境衛生施設	基地
大井・長島・東野エリア	大井町	中央公園 学園公園 中山道大井宿広場	舟山住宅 丸池住宅 磯山住宅 舟山住宅	舟山小学校 大井第二小学校 東野東中学校	東野市学校給食センター	原教職員住宅			市立東野病院		河原橋中継ポンプ場 東野市浄化センター アツアバーン東野線		
	長島町	中野公園 うとう公園 コロニ公園 「まじりた公園」 まきもと公園 ふれあいひろば 阿木川公園 神田公園 大崎公園		長島小学校 東野北小学校 東野西中学校			中コミュニティセンター 中央図書館 市民会館	まきがね公園体育館 まきがね公園野球場 まきがね公園多目的グラウンド まきがね公園テニスコート まきがね公園弓道場 まきがね西グラウンド まきがね西体育館		大崎浄水場	千田川クリーンセンター	エコセンター東野 リサイクルセンター ふれあいエコプラザ	
	東野			東野小学校			東野コミュニティセンター・振興事務所	東野運動広場		小野川浄水場	東野クリーンセンター	えな斎場	
	三郷町			三郷小学校		三郷教職員住宅	三郷コミュニティセンター・振興事務所		三郷診療所				
	武蔵町			武蔵小学校			武蔵コミュニティセンター・振興事務所				竹折浄化センター	種花苑	
	笠置町			東野北中学校			笠置コミュニティセンター	毛呂窪グラウンド 毛呂窪体育館		毛呂窪浄水場		一般廃棄物最終処分場 一般廃棄物最終処分場(次期処分場)	
	中野方町			中野方小学校		中野方教職員住宅	中野方コミュニティセンター・振興事務所	中野方グラウンド		中野方浄水場			
	飯地町		沖田団地	飯地小学校		飯地校長住宅	飯地コミュニティセンター・振興事務所		飯地診療所	飯地浄水場			
	岩村町		水晶住宅 八木木住宅 下木崎住宅 緑ヶ丘住宅 高松住宅 親ヶ平住宅 最平住宅 六根南第2住宅	岩村小学校 岩村中学校	岩村学校給食センター	大村陣教職員住宅	岩村コミュニティセンター	岩村グラウンド	岩村診療所	岩村浄水場 飯田浄水場 東田浄水場	岩村浄化センター 飯田浄化センター 松野浄化センター		丸山共同墓地
	上矢作町	福寿の里河川公園 農村公園	米広住宅 川原島住宅 川原島若者住宅 平野若者住宅 平野住宅 寺下住宅	上矢作小学校 上矢作中学校		松下教職員住宅	上矢作コミュニティセンター・振興事務所	上矢作体育館 上矢作グラウンド 上矢作弓道場 上矢作プール 上矢作テニスコート	上矢作病院 上矢作歯科診療所	上矢作浄水場 島津浄水場 深原浄水場 下原田浄水場 宇連浄水場	上矢作浄化センター 下・小田子浄化センター		
山岡・明智・串原エリア	山岡町	森林伝統文化体験交流施設 ホイヤーセンター イワクラ公園	長木団地 新原団地 東原団地 新中田団地 新中田南平団地 飯地団地 堀口団地 大正寺団地 間田団地A 間田団地B 田沢団地 中崎団地 山崎団地 田交新住宅 旧新原団地 雇用促進駐車場	山岡小学校 山岡中学校	山岡学校給食センター	間田教職員住宅	山岡コミュニティセンター	山岡グラウンド 山岡テニスコート 山岡弓道場 山岡マレットゴルフ場 山岡B&G海洋センター	山岡診療所	兼平浄水場 下手向浄水場 中田浄水場 西原浄水場 飯平浄水場 久保原浄水場		恵南一般廃棄物最終処分場	
	明智町	大正村明智の森	滝原住宅 滝原ハイツ 滝原ハイツ21 法明住宅 新井住宅 大東住宅 矢伏住宅 小畑住宅 新井住宅 友楽タウン東山 新山住宅	明智小学校 明智中学校 岩田小学校	明智学校給食センター	明智教職員住宅	明智コミュニティセンター	明智グラウンド 明智弓道場 明智B&G海洋センター 明智武道館		石原田浄水場 吉良見浄水場 矢掛浄水場 静波浄水場 横通浄水場 柳瀬浄水場	明智浄化センター 門野浄化センター	あおぞら 恵南衛生センター(旧) 恵南衛生センター	南家墓地 徳間墓地 第1・第2阿部院ヶ入墓地 黒井墓地 黒井寺墓地 正住地墓地 法明墓地
	串原	串原農村公園 木根農村公園	木根団地 松林団地 串原ささゆり住宅	串原小・中学校			串原コミュニティセンター	串原弓道場 くしほら温泉郷スポーツ施設	串原診療所	戸中浄水場 中沢浄水場 結着浄水場 柳瀬浄水場			

※ 各地区で同色施設が複合施設となります。
※ 見え消し施設は移譲・廃止施設となります。

平成28年1月1日 現在

6. 5. 再配置による公共施設保有量の目標

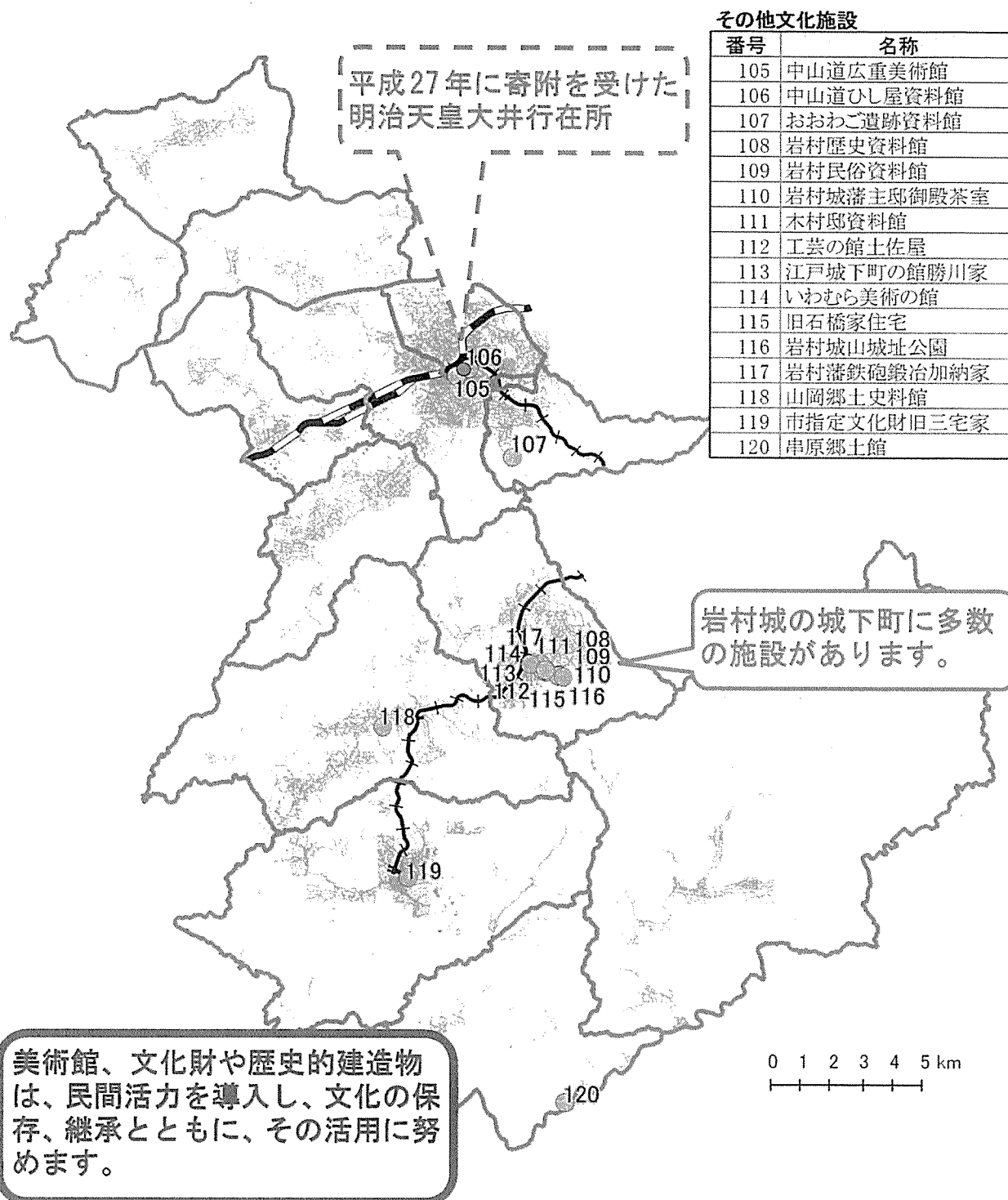
恵那市の長期財政計画では、歳出総額は平成 22 年度の 212.4 億円から平成 37 年度には 178.2 億円まで減額（16.1%）予想されています。投資的経費では、22.1 億円から 9 億円まで減額（59.3%）すると予測されます。また公共施設の更新費用は、年間 32.1 億円が必要と試算されており、単純に考え約 4 割の施設しか維持管理していくことができません。

このため行政サービスの維持・向上を図るため、以下の改善項目を実施することにより恵那市が保有する 347 施設（平成 28 年 1 月 1 日現在）（公共施設のうち公営企業会計や特別会計など独立採算で事業を運営している施設、こども園及び小・中学校など教育施設を除いた）を対象に公共施設保有量を 6 割とすることを本計画の目標とします。

改善項目：維持管理コストの見直し

- ・公共施設で共通する設備保守の契約方法を一括にするなどによる歳出削減
- ・施設や設備などの維持補修を問題が発生してから対処する方法から事前に点検を実施するなど修繕・工事費の抑制による削減
- 施設の複合化の推進
 - ・施設の複合化・集約化を進めることによる維持管理経費の削減
- 指定管理者制度の手法・民間活力の活用の検討
 - ・収益施設の指定管理など手法を検討し、公共施設を有効に活用するなどによる収益の確保
 - ・民間活力を活用する PFI・PPP により、効率・効果的な行政サービスの提供の検討

— 公共施設保有量 6割 —



岩村振興事務所及びコミュニティセンターの利活用について

所管課 文化スポーツ課→生涯学習課

■概 要

市役所西庁舎の完成とともに教育委員会が岩村振興事務所から移転したことに伴い、岩村振興事務所の空きスペースを有効に活用する必要性、及びファシリティマネジメントの考え方に基づく施設の適正配置を考慮して、岩村コミュニティセンターの機能を岩村振興事務所に集約し、岩村コミュニティセンターを恵那市の歴史資料館として活用する。また、中山道大井宿にある古屋家長屋門は岩村城にあった可能性が高いため、同長屋門を保存活用するため岩村コミュニティセンターに移築する。

・岩村振興事務所の活用

1 F・・・事務所（公民館含む。）及び物販レンタルスペースとする。

相談室及び印刷室は物販入居店舗業者の倉庫、控室等とする。

2 F・・・教育研究所跡は適応指導教室とし、和室を学童保育用、病院管理課跡は和室とする。

議場は、図書室と学習スペースとする。

会議室は全て公民館施設とする。

地階・・・食堂と隣接する和室を調理室及び試食スペースとし、残り部分は資料收藏スペースとする。

※各室の配置は、地元と協議中のため、変わる可能性がある。

・岩村コミュニティセンターの利用

1 F・・・事務所及び会議室を企画展示室。和室をセミナールーム兼控室とする。

調理室を作業室及び事務室とする。

エントランスホール奥に事務・管理室を新設し、図書室を收藏展示室とする。

2 F・・・全面的に展示スペースとする。

大ホール・・・現行と同様ホールとして利用

・古屋家長屋門の移設

桁行約28m、梁行き北側で約5m、西側で約6m、1階延床面積 152.58131.2 m² 軒高約4.7m。

恵那市指定文化財（昭和35年5月20日指定）で、木造2階建て棧瓦葺。門は規模が大きく城門風である。岩村城廃城の時に古屋家に移された可能性が高いことから、岩村へ移築し、保存活用を図る。

なお、3階部分は明治以降に付け加えられたものなので撤去し、元の姿に復元する。

・歴史資料館展示内容

【テーマ例】

- ① 先史時代の恵那（旧石器時代の石器（市文化財）、染戸遺跡出土品、上矢作の土偶など）
- ② 東山道と古代恵那郡（東山道を横軸、正家廃寺跡など市内の遺跡を縦軸として、概要を示す）
- ③ 遠山荘と遠山氏（遠山荘の成立と展開、中世の遺跡）
- ④ 戦国の動乱（市内の中世城館、岩村城を巡る織田、武田の争い）
- ⑤ 近世の恵那（三つの藩領の分布と特色）
- ⑥ 岩村城と城下町（近世岩村城と城下町の構造）
- ⑦ 中山道大井宿と脇往還（宿場の繁栄を軸に近世の産業経済の紹介）
- ⑧ 近代の恵那（近代の歩みの概観）
- ⑨ 恵那を創った先人たち（浅見与一右衛門ほかの人物紹介）
- ⑩ 中馬道と明智の発展（地方都市の発展を明智を例として紹介）
- ⑪ 岩村電気鉄道から明知線へ（恵那市中心市街地や近代岩村の形成を鉄道を軸に示す）
- ⑫ 大井ダムの建設とシクラメン栽培（恵那市の特産品の紹介）

平成 27 年 11 月 1 日

町民の皆様へ

(岩村地域自治区) 岩村地域協議会

岩村振興事務所と岩村コミュニティセンターとの施設統合について

日頃は、岩村地域自治区の活動に格別なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の秋に岩村振興事務所（以後は「振興事務所」と記載）に配置・配属されていた恵那市教育委員会事務局が新恵那市西庁舎に移転してから、振興事務所では大きな空きスペースができ若干の寂しさも感じています。そこで昨年度において岩村地域協議会では、今後の振興事務所の利活用に関するアンケートを実施し、その結果を元に恵那市に対し歴史資料館や観光まちづくり拠点等を兼ねた複合施設の検討を要望したところであり、当初は非公式に振興事務所機能を岩村コミュニティセンターに移転し振興事務所は歴史資料館とする方向の案も検討されていました。

しかし、岩村コミュニティセンターの施設規模から振興事務所機能の移転は難しく、逆に岩村コミュニティセンター機能を振興事務所に移転し岩村コミュニティセンターを恵那市全体の歴史資料館とする案が検討され、去る 9 月 24 日開催の岩村地域懇談会の席上において市当局から、この旨の提案がありました。

この案を受け岩村地域協議会では振興事務所での岩村コミュニティセンター機能や観光活用に関し、振興事務所・観光協会・商工会・商店連盟・文化振興会の皆さん等と意見交換し、裏面のよう岩村振興事務所改修以外案を作成しましたが町民の皆さんからもご意見を頂きたく、ここに改修案を町内回覧しご意見を賜りたくお願い申し上げます。

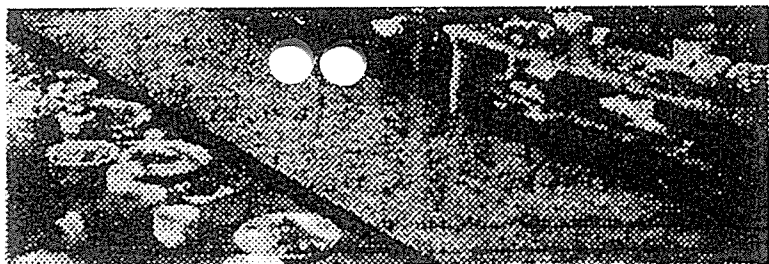
今後の予定は、町民の皆さんからの要望を取りまとめ、岩村振興事務所改修以外案を岩村地域の要望提案として恵那市に対し答申して参りたいと考えています。答申が承認されれば今年度中に設計に移り、来年度に改修工事に入る予定とのことです。

記

- | | |
|----------------|---|
| 1 岩村振興事務所改修以外案 | 裏面配置図 参照 |
| 2 意見提案期日 | 平成 27 年 11 月 13 日(金) 17:00 |
| 3 意見提案先 | 岩村振興事務所 |
| 4 意見提出方法 | ・様式任意（簡条書き）
・氏名、住所を明記してください。
・郵送、FAX(43-0159)、持参でお願いします |
| 5 問い合わせ先 | 岩村振興事務所(TEL43-2111) |

以上

な
付て
院であいいさつ
努力で順調に運営できて
んでいる。人間は体が丈



指令を各管理職あて、事
現金保管などについて万
ないよう強く要望した。
保管に関する件
役所、庁の林務課と福祉
にあつた現金が盗まれた
る。この出来事は職員
書類の整理と保管につ
な点があつたものと反省
事件である。
おいて、今後は部下の職
励して書類の整理、現金
管について、万遺憾のな
に注意せられたい。

白と懇談会

がし
校見物は、ちようと武並
屋内体操場建築の陳情の
地元PTA会長小栗省吾

夫であることが最も幸福であり
それにはいつも怒らないよう、
おだやかな気持ちで愉快に生きる
ことが大切であり、このために
はこどものように朗らかに毎日
を送って下さい。とあいつし、
参会者一同と昼食をとった。
終つて四人の美しい若者踊り、市
内有志の義太夫などをきき、丸の
しい一日をすごした。

市役所へ社会見学

姫栗小のよい子たち

去る五月十七日
姫栗小学校二年
生の十四名は、
担任の各務先生
に引率されて市
役所をおとすれ
た。よい子たち
は案内人の説明
に、一言一句か
みしめるように
聞き入り、熱心
に庁内各課を見
てまわった。観
光課では恵那峡のパンフレット等
をもらい、大喜びだった。



『まとい』ができました

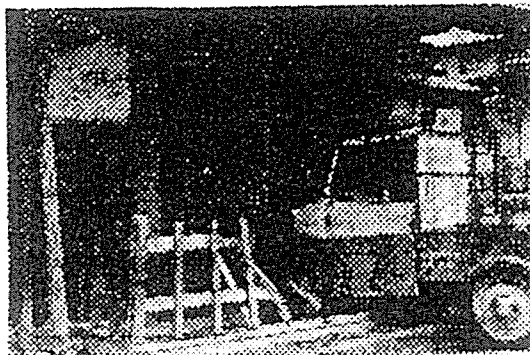
恵那市消防団で

恵那市消防団では、このほどま
といを新調した。統合以来、団旗
がなかったが、これで団の象徴が
できあがった。

文化財二題

こわされた文化財

専門家によつて復元

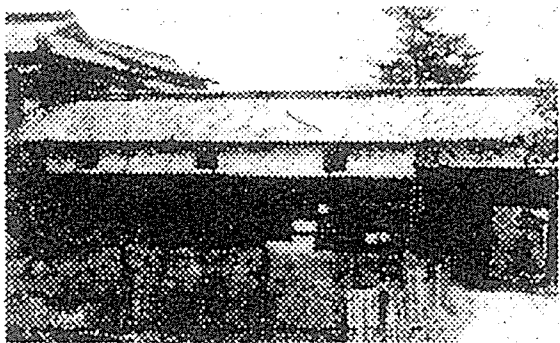


五月十四日未明、恵那文化財、
大井町旧本陣の門に、酔っぱらい
運転のオート三輪が衝突して、ト
ビラの一部が破壊された。文化財
保護委員会は、さっそく対策を協
議した結果、県から専門家を招い
て復元方法を研究することとなり
六日、県文化財審議会委員伊藤一雄
氏が来市して調査したが、本陣の
門は立派に復元されることとなつ
た。同時に伊藤氏は古屋亨氏の方
裏にある長屋門の調査も行つた。
本陣の門は、元禄時代の建築だが
室町時代の建築様式をそのまま再
現したもので、元東大教授工学博
士藤島亥治郎氏も中仙道すじには
二つとない立派な門だと激賞した
貴重文化財である。

市の文化財ふえる

古屋氏の長屋門を指定

市文化財保護委員会は、大井町
堅町古屋亨氏(内閣調査室長)本宅
裏の長屋門を文化財に指定した。
この門は総ケヤキづくり、高さ八
尺、幅十尺という立派なもの。徳
川中期の建築様式をそのまま伝え
ている貴重な建物である。
もとは旧本陣の通用門として使
われており、同屋敷の北側にあ
つたものだが、明治初年古屋氏
方へ移築されたという。昨年、
岐大教授、岐阜県文化財審議委



園長が文化財調査のため、来市

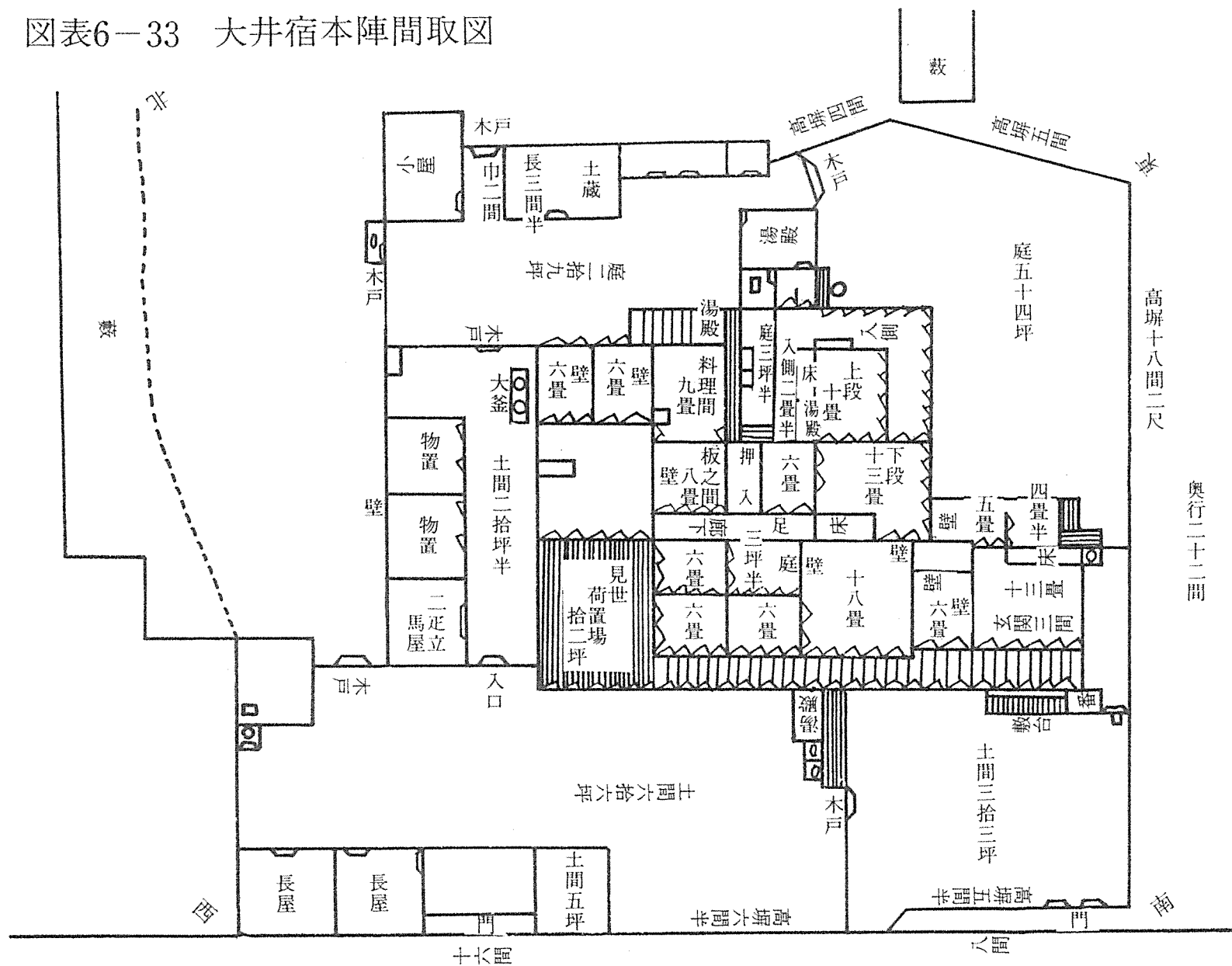
したときに激賞したもの。

普及PR

水を使つて
水道課
い

第二回「水
道週間」は
六日から行
われたが、
健康で衛生
的な日常生

図表6-33 大井宿本陣間取図



【本陣平面図にある長屋門について】

・大井本陣平面図では、表間口惣体式拾四間／43.6m (長屋門側十六間＋正門側八間／14.5m)、長屋門側十六間 (29.1m) のうち、高堀六間半／11.8mなので、本陣の長屋門の間口は九間半／17.3mと計算される。

・現在の古屋家の長屋門の東面の全体の間口は28.25m／十五間半～十六間、3階建て部分を除くと20m／十一間となり、古屋家の長屋門は、本陣にあった長屋門よりかなり大きいものであることは間違いない。

第三節 休泊施設

vi) 古屋 亨氏家(堅町)

この家は街道からやや引きさがって建っており、二階もかなり高く、瓦葺で外壁が塗籠とされ、二階正面窓の格子も塗籠められているが、このような塗籠めは旧宿内では他に例はなく、大井では比較的新しい形式と思われる。主屋の北側には、明治15年に建てられたとされる、式台と茶室の付いた広い座敷が接続しているが、その北側面には卯建が設けられている。主屋も明治初年か、あるいはそれ以前のものを近代になって改造(とくに二階)したものとも思われるが、明確ではない。

ごく最近まで医院として使われており、そのためとくに内部の改造が著しく、柱は板を張って隠されている部分も多いが、主構造は変えられていないようである。

平面は典型的な町屋形式で、南側(江戸側)に「にわ」をとり、部屋は2列3室の型である。「みせ」および「だいどころ」と「にわ」との境は、上部に太い梁が入り、開放となっていた。全体的に構造材は比較的太い。「みせ」および「おくみせ」に当る部屋の正面は、現在窓になっているが、柱が包まれていて痕跡を調べることができず、当初の状況は不明である。

二階は前面2間半に設けられているが、床の間を備えた広い座敷となっており、階高も高く、階段も変則的な形で付いているので、後の増改築かとも思われる。また、裏にも一部に二階がとられているが、古い家では他に見られない。いずれにせよ、建築年代や改築の状況については、なお詳しい調査が必要である。

主屋の北側に接続する増築部は、明治15年の建造とされているが、街道に面した土塀に門を設け、式台、座敷、茶室を備えた独立した接客空間となっている。座敷は15畳が2室並び、建築的に質の高いものである。座敷の鴨居の廊下側側面に、天保の年号のある細かい文字の書かれた板が張られているが、字が薄く読みとれなかった。判読すれば、興味ある事実が判明するかもしれない。座敷の前には小庭園も築かれている。

敷地は極めて広く、屋敷を回って土蔵が並んでいる。裏門は本陣の長屋門を移したとされているが、その規模から見ると、元岩村城のものであるという、もう一つの伝承も捨て難い。なお、考察が必要である。

恵那市指定文化財の指定解除について

恵那市文化財保護条例第4条に基づき、次の指定解除について諮問する。

・指定解除案件 1件

・指定解除文化財名称 喉の滝（のどのたき）

□種 別：名勝

□指定年月日等：平成16年10月25日、恵市名第2号（合併による）

旧上矢作町指定／昭和50年6月2日

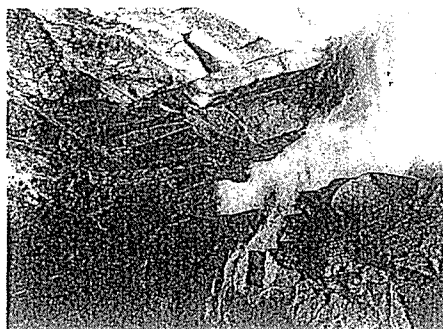
□所 有 者：国土交通省

□所 在 地：恵那市上矢作町 1171-370

□理 由：平成25年の大規模な岩盤崩落により、滝が埋まり指定時の形状がなくなった。自然的に形が回復する見込みがないか2年程注視してきた。

所有者の国土交通省では河川改修の可能性は低く、改修しても往時の名勝として戻ることが不可能と予想される。

□ 喉の滝の状況（上面4枚平成25年以前）



歴まち事業実施スケジュール(平成28年度)

	H28 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29 1月	2月	3月	4月
案内板設置事業				設置									
道路舗装修景事業		設計											工事
大井宿ポケットパーク整備		設計											工事
行在所活用事業													
・住居・蔵内包物除去													
・主屋外観改修		設計											改修
・土間改修		設計											改修
・資料室改修		設計											改修
・和室改修		設計											改修
・新建材取り外し		設計											改修
・蔵取壊し								工事					
・古田家駐車場及び中庭の公有地化		購入											
・運営主体の検討・決定													

利用目的に定めた運営主体を
早く決める必要がある。

H27-1 浄光寺本堂修理（伝建物）
H28-1 浄光寺本堂修理（伝建物）

建築：江戸後期（明和6年）

H27年度
H28年度

建物の概要：土蔵造一部2階建・寄棟屋根・棧瓦葺き

事業の概要：瓦屋根の葺替え、軸組部分修理（柱の根継ぎ等）、増築部分撤去、雨落ちの整備
土塗り壁の修理

<ポイント>

- ・ H26、H27、H28年度の3年をかけて修理する計画。
- ・ 伝建の補助と市の文化財修理の補助を利用するため、それぞれの補助対象範囲分ける必要がある。
- ・ 今年度は屋根の葺き替え、来年度は本堂修理の雨落ちの整備。
- ・ 全体の工事は6月中に完了の予定。



H27工事前 北東面



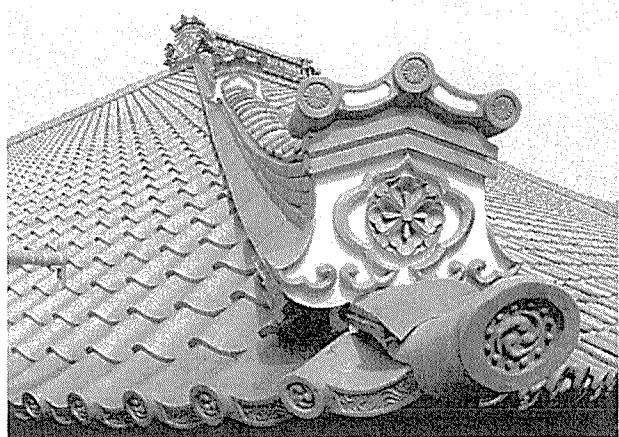
H27工事前 南西面



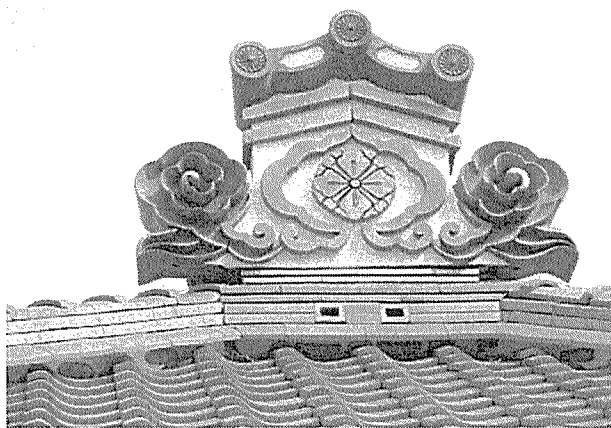
H27工事後 北東面



H27工事後 南西面



H27工事後 下り棟



H27工事後 鬼瓦

史跡正家廃寺跡発掘調査(平成 27 年度)の成果

平成 28 年 1 月 30 日

恵那市まちづくり推進部文化スポーツ課

恵那市は、平成 24 年 5 月に史跡正家廃寺跡の保存管理計画を策定し、これに基づいて整備へ向けた取り組みを進めています。計画の立案にあたっては史跡の全体像を把握する必要がありますが、過去の調査は塔や金堂のある伽藍地を中心に行われていて、それ以外では不明な点が多く残されています。特に次の 4 点は、正家廃寺がどのような寺院であったかを明らかにする上で大変重要なポイントです。

(1) 伽藍地正面(南側)の遺構の確認及びその性格の把握

→お寺の正面はどのような景観だったか。

(2) 東方区画の性格の把握

→お坊さんはどのような生活をしていたのか。

→お寺はどのようなことをしていたのか。

(3) 伽藍地西辺築地外側の遺構の確認

→一つだけ発見された礎石。西側にも大きな建物があつたかもしれない。

(4) 中心伽藍地の規模の確認

→中心伽藍地はどのくらいの規模だったか。

そこで、この四つの課題の解決を中心として史跡整備に向けたデータを収集するため、発掘調査を実施することにしました。5 年計画で 4 ヶ年を現地調査、最終年を報告書作成にあてる予定です。

【正家廃寺跡のあらまし】

- ・ 主要伽藍を法隆寺式に配置する本格的な古代寺院跡。
- ・ 寺域は東西約 110m、南北約 70m。(今後広がる可能性あり)
- ・ 8 世紀前半に造営、9 世紀後半に主要伽藍が火災で失われるまで、1 世紀余り存続。
- ・ 大きく二時期に分けられ、前半は回廊で主要堂塔を囲む。8 世紀末に回廊に代わって築地となる。
- ・ 主要伽藍のある伽藍地は東西 55m、南北 70m で、その東側に同等の規模を有する築地で囲まれた区画がある。(性格が不明なので「東方区画」と仮称)
- ・ 金堂の建物は、廂(ひさし)の柱が身舎(もや)に対して放射状に配置される特異な構造であります。
- ・ 奈良三彩、風鐸など希少な遺物が出土しています。

【平成 25 年度の成果】

伽藍地正面中門推定地南側を調査した結果、伽藍地南側には遺構はまったく存在しない

空閑地の存在が明らかになりましたが、道路などのアプローチは確認されませんでした。

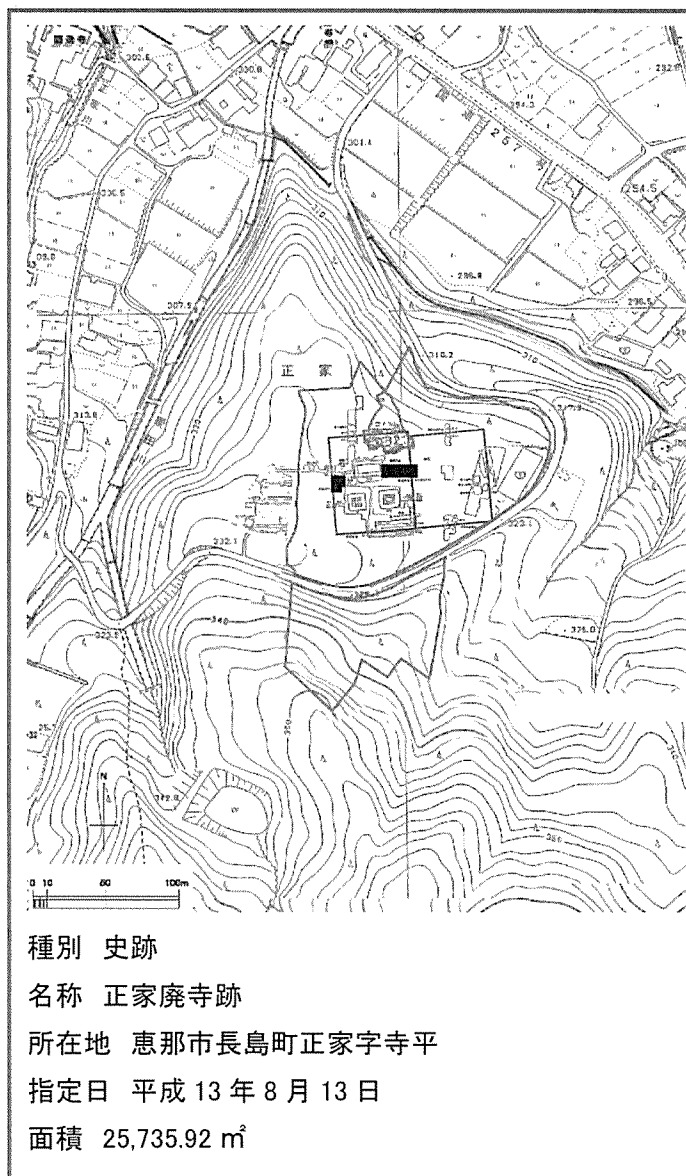
【平成 26 年度の成果】

平成 10 年度発掘調査区域南側では幅約 40 cm、深さが 5 cm～10 cm ほどの溝が 4 条、ほぼ同一の幅（約 220 cm）をもって並行しています。また、調査区域南東隅で、柱穴と認められる二つの対応する土壌を検出しましたが、発掘調査区内では建物全体を把握することはできませんでした。

北側の区域では、平成 10 年度発掘調査で検出された掘立柱とされる土壌に対応すると思われる土壌を検出したほか、炉跡と推定される炭化物、焼土、焼石が含まれる土壌を検出しましたが、炉跡であることを裏付ける明確な遺構は検出されませんでした。

【今年度調査概要】

調査箇所 講堂東側及び西側
調査面積 400 m²
調査期間 平成 27 年 8 月 24 日～
平成 28 年 1 月下旬
調査主体 恵那市（担当：文化スポーツ課）



【この場所を調査地点に選んだ理由】

史跡の整備を進める上で、主要伽藍の規模の確定を優先させるため、講堂東辺及び西辺の回廊と築地との関係並びに未確定である講堂東側の基壇を確認するための再調査が必要です。

【今年度調査の成果】

●回廊の北東コーナーの柱穴を検出

講堂東側で回廊の北東コーナーにあたる柱穴及び講堂東側基壇へ取り付く回廊の柱穴を検出しました。講堂東側回廊で検出した柱穴は 16 か所あり、おおむね桁行が約 2.5 m、梁行が約 2.8～3 m です。柱穴そのものの大きさは縦横 50～60 cm が主になっています。講堂西側コーナーについては検出中です。

●築地の東西の出入り口と思われる遺構を検出

伽藍地内と外の出入り口と思われる遺構を検出しました。門跡ではないかとの根拠は、今回、伽藍地内と外を区画する築地塀と思われる遺構とその築地塀の両脇にある溝を検出し、両脇の溝のひとつがその部分で狭くなり、もう一方の溝は東側の門跡では橋状になり、溝の幅が極めて狭くなっていることにあります。西側の門跡では一方の溝は土橋となっていて溝が途切れてしまっています。

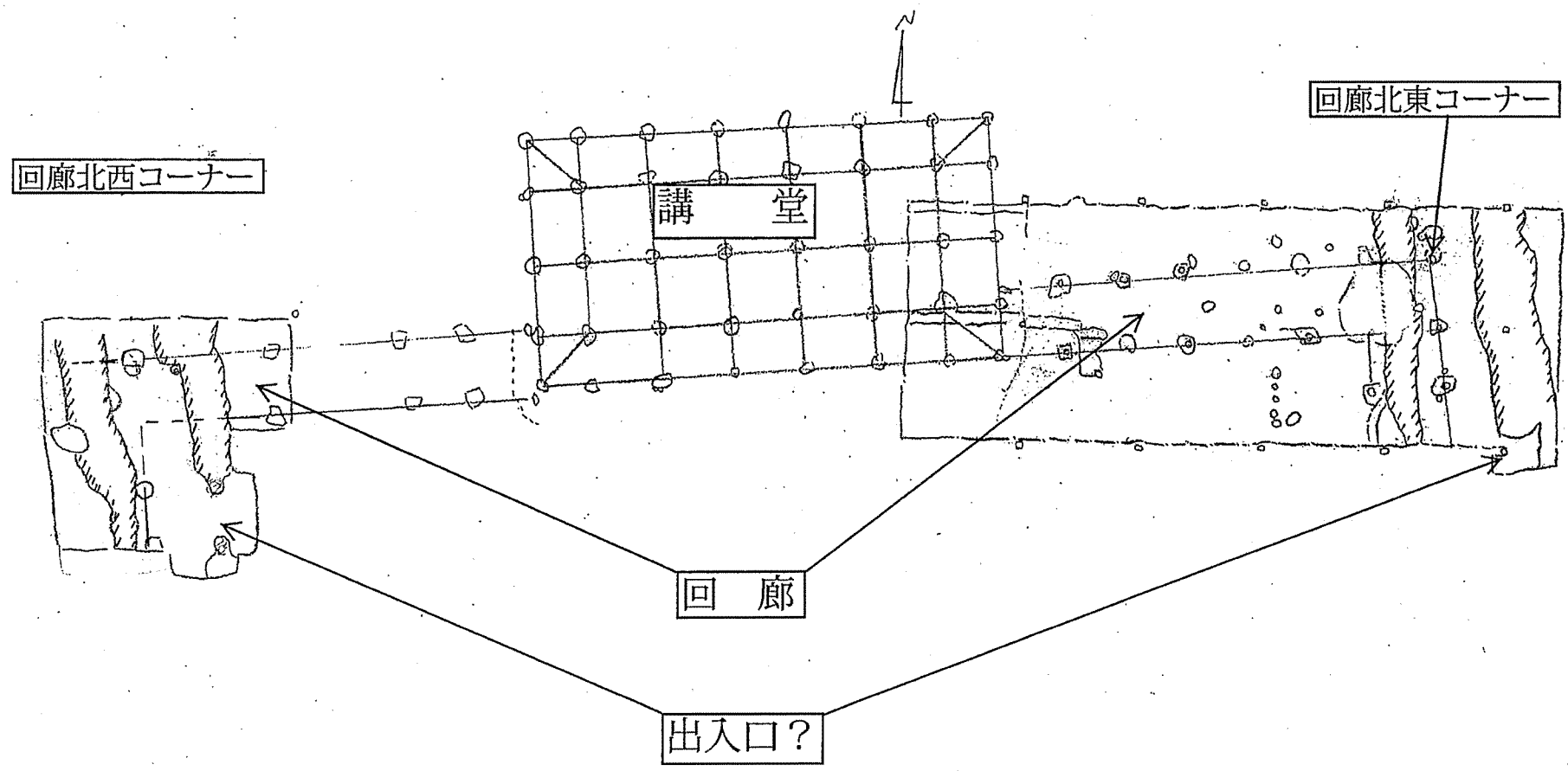
なお、この東西の門跡と思われる遺構は、伽藍地を東西南北に区画する築地塀のうち南北の長さ約70mのほぼ中間点に位置しています。

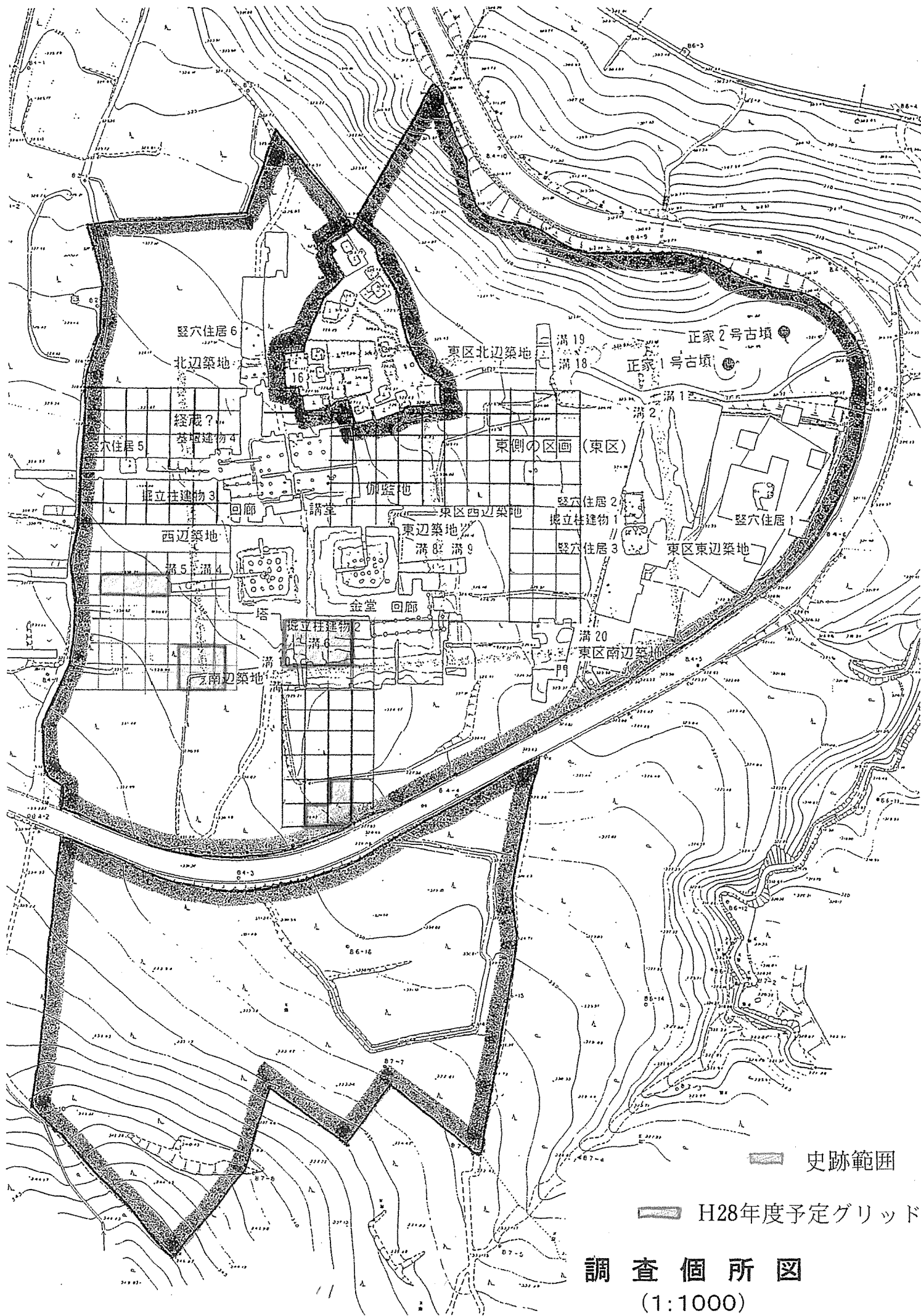
●築地塀と溝の検出

伽藍地を区画する築地塀のうち東西部分を検出しています。築地塀の幅は東西ともおよそ3m、その両脇にある溝は1.9m～2mほどの幅があります。

●出土遺物

三彩陶器片が4点ほど出土しています。その他には縄文土器から須恵器、土師器、灰釉陶器、長さが30cmほどの鉄釘など金属製品が出土しています。灰釉陶器は9世紀から10世紀のものが主体になっています。





調査箇所図
(1:1000)

平成27年度恵那市詳細遺跡分布調査概報

1 はじめに

岐阜県恵那市では、国庫補助による詳細遺跡分布調査を平成25年度より開始することになった。25年度に恵那市岩村町と上矢作町を皮切りに28年度までに市内全域で分布調査を実施する予定である。

平成27年度では、26年度に実施した恵那市笠置町、飯地町の補足調査と恵那市大井町、長島町、東野、三郷町、武並町の分布調査を実施した。

2 調査の方法

従来と同じ方法で実施した。

悉皆調査を行うが、主に既知の遺跡の確認と新たな遺跡の発見ということを主眼において実施し、植林による林や自然林のある山地並びに市街地は調査から除外している。ただし、山地内にある古墳や城跡、窯跡などについてはこの限りではない。

調査に当たっては、平成14年国土交通省告示第9号の規定による第Ⅶ座標系である2,500分の1の恵那市都市計画基本図を主にするが、2,500分の1が無い所では第Ⅶ座標系の5,000分の1の恵那市都市計画基本図を用いた。地図上に遺物採集地点を記録するために地図を一区画50mの方形に細分することにした。この際、2,500分の1の地図では、縦横500mを一区画とする縦横の線が引かれている。そこでこの500mの一区画を50m区画に細分し、西から東、すなわち横をAからJまで北から南、すなわち縦を1から10までの番号を振り、その縦横の組み合わせを一区画の名称とした。さらに500m区画は、一枚の2,500分の1の地図では、東西で4区画、南北で3区画あり、全部で12区画ある。それで地図の最上段の西側の区画から東へ(1)から(4)とし、中段、下段も同様にして(1)から(12)までの番号を振った。それで個別の50m区画の一枚の地図上での名称とすることにした。たとえば、ME25-1という2,500分の1の地図があるが、この地図の左上段の500m区画内のある地点は、次のようになる。ME25-1(1)A1等々。5,000分の1では500m区画が1,000m区画になり、1,000m区画が東西にAからTまで南北が1から20までとなる。後は同様である。

3 分布調査

笠置町、飯地町

平成27年7月13、14、15日に実施した。

調査内容

・笠置町河合

河合の神田、オカリト石、中切、林根、上井平、井の嶋遺跡を調査する。神田、オカリト石は、笠置ダムにより水没して現在は河川敷になっている。遺物なし。中切は、発掘済み。林根は墓地となっており、明治期の磁器等が見つかる。上井平は現在でも打製石斧が採集でき、若干遺物を採集できた。井の嶋は、すでに圃場整備されてしまっており、遺物

を採集できなかった。ただし、河合から中野方へ向かう古道は中野方川沿いに六地藏あたりから遠藤農機という商店近くまで残されていた。

河合町郷路、清宗遺跡では近世陶器がわずかししか採集できず、宅地と畑、水田となっている。飯地へぬける旧道である飯地道が残り、竜現寺跡あり。ここは特に変化なし。

・飯地町沢尻、五明、杉之沢、南、福原尾

五明の河合坂で縄文土器、石鏃、山茶碗等を採集。笠置町河合へ抜ける旧道があり、その旧道から100メートルほど離れた場所に石垣が設けてあった。この近くに平正寺というのがあったそうでその寺跡とも思われる。

周知の遺跡である西片、松尾、細畑、笹屋、下杉遺跡での遺物分布状況を調べる。いずれの遺跡もかつては桑畑であったが、その桑畑に植林しているため現況は森林である。そのため、遺物採集はほとんど不可能になっている。下杉では残された畑地で若干遺物が採集された。遺跡周辺の住民の方に遺物云々を聞いてもあまり見たことがないという返事が多い。

杉之沢神明堂遺跡は、森林化されておらず、畑地で従前とは大きく改変されてはいないが、遺物は採集されなかった。

沢尻集乳所上遺跡は、圃場整備済みで遺物は無かった。

沢尻橋近くの頼頼幸信さんの家の北側に鉄鉱石の鉱山があり、昭和30年代初め頃まで採掘していたようである。現在は、坑道は塞がれている。また、鉱山入り口には、宝篋印塔が残されていた。

大福屋遺跡：田は圃場整備済、分布範囲と思われるところは宅地や道路になっており、採集困難であった。

岩切道遺跡：市道等によって寸断されている。また、かつて桑畑と思われるところは植林されて森林化している。道路の切羽ならびにその周辺で遺物採集を試みたが、何も採集できなかった。馬頭観音1基あり。

洞遺跡：現況は栗畑、休耕田、田といったところで土地所有者の方に遺物等の話をうかがったが、採集したことはないとのこと。栗畑では江戸期の近世陶磁器並びに明治期の磁器などで中世、古代の遺物は見当たらなかった。

柏久後遺跡：畑が一部が残っているが、大半は植林され、森林化している。土地所有者の方からは、鏃などの遺物を畑作業中に出てきたという話は聞くことができなかった。ここも植林されているところは、かつて桑畑であったという。

水汲場遺跡：整地された田と蓮池になっている。また、他から碎石が持ち込まれている。そのため、遺物はまったく採集できなかった。遺跡の範囲内に当たるが、隣接して大根のシデコブシ自生地があり、ハナノキ、シデコブシが密集している。馬頭観音1基あり。

裏洞遺跡：すべて森林化しており、遺物採集は困難。

笹畑遺跡：土地所有者によると周囲はすべて桑畑であり、後に植林したのですべて森林化している。従前、鏃が見つかったが、ほとんど遺物が採集できた話は聞いたことが

ないいうことであった。

長島町、東野

調査日：平成27年7月22、24、27、28、29、30日

・ 長島町正家

- ・ 正家積石塚：正家廃寺西側周辺と積石塚の現況を調査する。

積石塚はその一帯が植林されて発掘調査時よりも森林化している。積石塚自体が大きく改変されていることはないが、崩れて輪郭が不明確になっているものも見られる。一号積石塚から南へ100メートル以上進んだ崖淵にやや土が盛り上がった古墳状の盛り土が見られる。さらにその南には、低い石垣が設けられている。田か畑の石垣か。

- ・ 寺平積石塚：正家古墳3、4、5号近傍の山道を南へおよそ200mほど登ったやや平坦な山林に低く礫石が円形に積まれた積石があり、大きなもので直径が5～6mほどあり、特にそのうちのひとつには正家積石塚3号に見られたように中心部が窪んでいる。このような積石の塚が6基確認できた。周囲は植林されている。

なお、この一帯は「万灯平（まんとびら）」と言って昔疫病が流行ったときに灯籠を灯して平癒を祈ったと言う。

- ・ 正家古窯群：昭和58年に発掘された1号窯は、そのまま崩壊などはない。遺物もまだ採集できる。正家古窯2,3号に関しては想定位置を探索したが、すでに林道によって破壊されているようで灰原の痕跡も見つけることができなかった。

- ・ 桑下遺跡：現在は、整備された水田、雇用促進住宅、市営住宅並びに個人住宅が所在しており、遺物等が採集できる場所が限られている。かつて促進住宅近くの送電鉄塔付近には炉跡のある住居跡があったようである（実際に見た人の話）。一帯は桑畑で鍬などが多く採集されたと言うことである。今回、鉄塔近くの水田畦道でチャート製の削器を一点採集した。また、雇用促進住宅西北に墓地があり、そこには五輪塔（近世）が3基建っている。墓への道筋で打製石斧を一点採集したが、全体的には採集できた遺物はこの2点のみである。40年ほど前は水田、桑畑などで多くの鍬等が採集できたと言うことであるが、すでに宅地化されたところも多く、かつて遺跡であったということである。

- ・ 飛ヶ根遺跡：整備された水田と宅地化により、遺跡とはいえなくなっている。遺物は採集できなかった。

- ・ 飛ヶ根中世墓：円通寺裏の墓地に五輪塔が不完全ではあるが、6基残されている。

- ・ 正家上垣外（細江和章氏宅と山田クリーニングの間並びに国道の西側）の水田より須恵器甕破片、山茶碗などの遺物が採集されている。遺跡地図には記載のないところで現在圃場整備されている。この付近（特に国道より西側はかつて湿地帯で湿田であったといい、田に敷いてあったのか田の中から木の板が出てきたことがあると言う。この水田の西側は正家廃寺の所在する寺平で台地から山地になっている。上垣外の北側が牧垣外でかつて千村氏の郷倉があり、現在も若干石垣が残っている。

- ・ 八反田遺跡：すでに発掘済み。現在は圃場整備されている。わずかではあるが、山茶碗

が採集できた。

- ・ 石田中世墓：五輪塔 8 基。遺跡地図とは位置が異なっている。
- ・ 正家中曾根の水田、畑地で分布調査を行う。細江和章氏が中曾根の水田で山茶碗等を採集している。結果、若干ではあるが、山茶碗の破片が見つかった。しかし、量的にはわずかで、遺跡として捉えることは困難である。この地区は早い時期に圃場整備が行われており、原位置を保っていない。ルンビニー保育園東南かどには山ノ神、天神、水神とともに秋葉永代灯があり、文政 4 年の銘があった。この地区に秋葉道があったということか。

・ 東野染戸、中ノ島、下沢、

- ・ 東野陣屋跡、染戸、大門：陣屋跡は堀、土塁も崩れることなく、よく形状を保っている。

陣屋付近で若干遺物が採集できた。染戸遺跡周辺では現在もよく遺物が採集できるように地元の人が打製石斧を一点くれた。染戸五輪塔、宝篋印塔もそのままでよく保存されている。

- ・ 中ノ島、下沢遺跡：大半が圃場整備された水田で遺物がほとんど採集できなかった。その他は宅地化され、宅地近辺に畑地があるが、栽培中であるので中に入ることができなかった。

- ・ 下沢中世墓：A, B, C の 3 地点あることになっているが、B, C までは確認できた（遺跡地図の位置が違っている）が、A は確認できなかった。

- ・ 高衿中世墓は 5 基五輪塔を確認できた。中ノ島庵寺があり、馬頭観音が 1 基あった。

なお東野の八坂神社は、正家の円通寺のほぼ真東にあり、正家廃寺も見渡すことができる位置にある。

・ 長島町中野、永田

- ・ 大隅屋敷遺跡：全般的に宅地化され、さらに一部水田があるが、圃場整備されている。畑地からわずかではあるが、山茶碗を採集できた。ただし、道路等を掘り返すときには、調査が必要ではあると考える。

- ・ 若宮中世墓：通称お壺様で祠はそのまま保存されている。この祠の西隣にやや盛り土上になっている竹藪があり、空洞が見られるが、石等で覆われたものではない。この盛り土は何らかの塚とも考えられる。

- ・ 鍛冶畑中世墓：桜堂という堂があり、その脇に小さな塚上の盛り土がある。

- ・ 坂の上中世墓：10 基の五輪塔と馬頭観音 1 体を確認する。

- ・ 中野神明神社遺跡：水田は圃場整備され、神社敷地のうち平坦部は整地され駐車場になっていた。遺物は採集できず、遺跡としては確認できない。

- ・ 西行塚：現況、従前と変化なし。

- ・ 槇ヶ根一里塚：変化なし。

- ・ 槇ヶ根立場：従前と変化なし。よく残されている。

- ・ 槇ヶ根追分茶屋跡：従前と変化がないが、猪によるものか敷砂利が一部掘り返されている。

・永田 9 号窯：現状、道路の下にあり、遺物が散見できる。道路の一部が雨水等により挟れており、窯壁の一部や陶器片が顔を覗かせている。盗掘等は受けていない。

・永田 7 号窯：永田上の 3、牧野幸雄氏宅から南東へ約 100 メートルほどの山地の裾部分に灰釉陶器片が見つかり、窯壁の一部も見られた。灰釉陶器は、永田 9 号窯と同質のものである。

・永田 1 号古墳：地図上の位置は、雑木等が生い茂っているため確認できなかった。西尾明子氏宅の前に「せんずい」といういわれの塚があり、昔から壊さないようにしてきたが、今はかなり小さくなったと言う。古墳ではないが、何らかの塚であろう。

・高安寺窯跡：高安寺裏に所在すると言うことであるが、現地はすでに墓地になっており、確認できなかった。

・木下古窯：山本英一郎氏宅の裏にあると言うことであるが、山本氏にうかがっても知らないと言うことで現地でも確認できなかった。

・羽根平中世墓：確認できず。この中世墓があると言う場所から豊玉稲荷への道があり、そこは一部畑地になっており、山茶碗が一片採集できた。

・永田 2 号古墳：墳丘の頂点付近並びに西側 4 分の一ほどが削平され、石室の一部が露出しているが、石室入り口は破壊されている。永田上の 2 渡辺氏宅の裏にある。

調査日 平成 27 年 8 月 3、4、5、6、10、11、14、19 日

・長島町、大井町、武並町、三郷町

・長島町久須見

千田池周辺の千田古墳群を見て回る。千田 8、12、5、3、14 号確認。いずれも現今の遺跡地図の位置とは若干異なっている。15 号は所在不明、すでに消滅か。

久須見三反田は発掘済みで圃場整備されている。久須見の古屋敷はすでに圃場整備済みで採集できず。皿焼ヶ根窯跡はすでに道路になっており、痕跡は見出せなかった。窯跡推定地の土には若干粘土が混じっている。

久須見地区の古墳を中心に現況、所在確認を行う。

千田 35、36 号：越高の旧ゲートボール場にあり。改変等は被っていない。

千田 26、27、28、29 号：町野氏裏の山中にあり。改変はない。

千田 33 号：位置確認、ただし、市史には横穴石室があるとされるが、今回確認したものには石室がないので再確認が必要である。

千田 30、31 号：位置確認。

千田 1、2 号：確認。1 号は井上氏宅裏、2 号は町野氏宅前。いずれも封土はなく、石室の一部が残るのみである。

千田 3、4 号：久須見のたんぼぼ作業場の南側山林に位置する。

千田 21、22、23 号：改変ない。21 号は石室、葺石ともによく残っている。恵那市ではかなり大型の古墳である。24 号は位置がはっきりしない。

千田 34 号：独立丘の頂点にあり、宝篋印塔が建てられている。古墳は円墳で石室は見当

たらない。この丘は比丘尼塚と呼ばれ、江戸時代に尼さんが住んでいたという。

地元の有識者の磯村氏に八幡神社の五輪塔や久須見上本郷から永原渡船場までの古道を案内してもらい、久須見城跡まで歩く。八幡神社は昭和55年に古瀬戸と常滑の骨壺が見つかったところでもある。磯村氏によると久須見城跡の墓地にある石棺は、江戸時代に町野氏が供養のために建てたものであり、そのなかに仏様を入れたものであると言う。その証拠に石棺の上辺の真ん中に四角い窪みがあるが、それは蓋をしたときに蓋をはめ込んだ跡と言うことである。

磯村氏によると笠置の猪狩砦の木曾川を挟んだ対岸の久須見側に丸野という砦跡があるとのこと。

・長島町中野

能万寺1,2,3号：確認、改変なし。

能万寺4, 5, 6号：所在不明

能万寺7号：確認。墳丘等は失われている。

能万寺8,9号：確認。改変なし。

能万寺10号：9号の西約50メートルほどの位置にそれらしき石が残るが、古墳かどうか確認できず。

能万寺11号：松ヶ丘の最も高い位置の山林にあり、すぐ東側が崖になっている。

能万寺15号：確認。改変なし。

・大井町

専行寺1号：確認。天井石のない石室が残るが、南側は専行寺ができた頃に削平されたのか消失している。

専行寺2号：消滅

大井町蓮華寺古墳：9基あるとされているが、6基を確認。残りは確認できず。

蓮華寺古墳群南側の墓地で山茶碗採集。

旧長国寺跡の一部か、明智鉄道の線路北側に宝篋印塔が散乱している。

・三郷町野井

森山古墳群：7基確認。

北山古墳群：北山1, 2, 3号確認する。すべて円墳で石室がない。

北山4,5,6,7号確認する。いずれも葺石、石室が残り1～3号までの古墳とは時代が違うのではないだろうか。

北山8号は藪の中に鏡石？らしき石が残るのみではっきりと古墳とは確認できないが、地元の人がこれだと言う。

柿平遺跡：圃場整備がなされ、宅地化も進んでいる。ここで耕作している人に聞いても何も採集できないとのことである。

北山中世墓：五輪塔を2基確認。

川上遺跡、法仙寺遺跡：かつて桑畑であったところが水田化し、圃場整備もなされている

ので何も採集できなかった。

法仙寺跡：野井川左岸にあり、河川敷のように平坦になっている。低い石垣があるが、畑、あるいは田の跡かもしれない。あるいは寺の敷地跡か。

法仙寺の旧農道の掘割頂上に稲荷神社があり、その北側に狭い区画の墓地があつて宝篋印塔が1基ある。

野井御嶽神社境内には7基の五輪塔がある。

・三郷町佐々良木、殿畑、棕実

亀ヶ沢古窯：確認できず。

佐々良木古墳群：1,2号確認。3号は市史の記載にしたがって1号墳から5メートルほどのところの畑を確認したところ、石室の一部であつたと思われる石があつたのでそこを3号墳とした。4号墳は確認できなかった。

上平遺跡：畑周辺を見て回つたが、何も採集できなかった。

下紺屋古墳：1号墳を確認する。墳丘は低く、全体に小さく、古墳と言うより塚と言うほうがよいぐらいである。2号墳は消滅している。

寺田中世墓：五輪塔確認

上蔵中世墓：確認

塩沢中世墓：ここにあつた五輪塔は常久寺へ持っていったということである。

丸山古墓：丘陵の先端にあり、塚のように盛り上がっている。盛り上がったところに板碑がある。近世のものようであるが、元来、何らかの塚であつたかもしれない。

・武並町竹折新田、美濃

武並町竹折の大円坊、新田遺跡の遺物採集を行う。

大円坊は、かつて大円坊教寺というのがあつた場所というのが、詳細は不明。一部、畑地が残っており、若干の山茶碗等が採集できた。地元の話によると山茶碗はあるが、その他のものは採集したことがないとのこと。隣接する新田遺跡も同様である。遺跡は大部分が宅地と水田になっている。

調査日：平成28年3月3日

長島町正家寺平積石塚群を再確認した。

まとめ

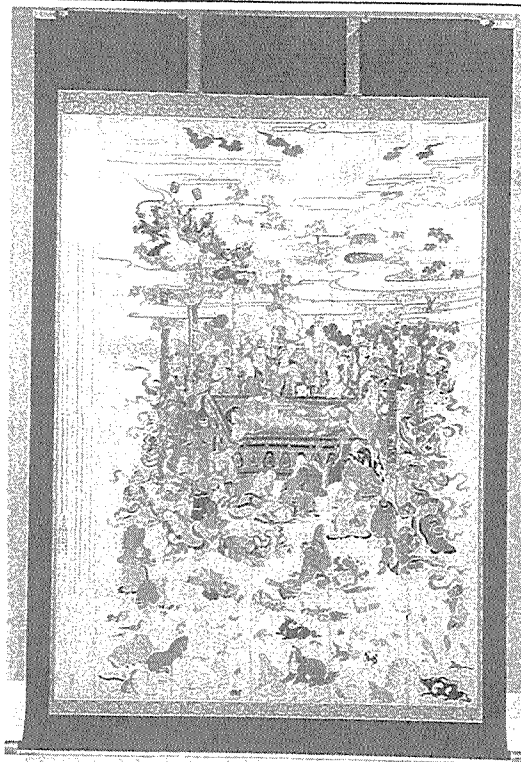
本年度の調査においては、ほとんど新たな遺跡は発見できなかった。周知の遺跡についてはほぼ確認できたが、従前、縄文土器や石器等が発見されていた遺跡も圃場整備されたり、植林されて森林化してしまっており、採集できた遺物には縄文、弥生等の土器、石器は少ない。多く採集できたのは中世の山茶碗や近世の陶器、近現代の磁器等で特に明治期の磁器染付け茶碗、皿等は飯地町の山中でも採集できた。

古墳や五輪塔などの石造物については、消滅、消失は、比較的少なく、ほぼ従来どおりの場所に位置していた。

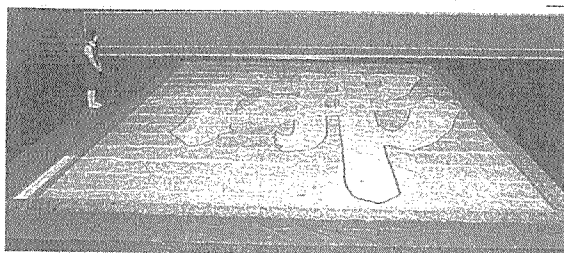
修復終え30年ぶり公開

9日恵那で釈迦涅槃像画軸

恵那市指定文化財「釈迦涅槃像刺繍画軸」の修復作業が終わり、九日午前十時から、市指定文化財「紙本六字名号帳」も合わせて披露する。一般に公開するのは約三十年ぶりになる。



修復を終えた「釈迦涅槃像刺繍画軸」



紙本六字名号帳

二点はいずれも同町の盛巖寺が所有。釈迦涅槃像刺繍画軸は、縦三・五呎、幅二・二呎。江戸時代の一六四九年に制作され、刺繍で釈迦が亡くなる際の様子を表現している。近世のものは希少で、出光文化福祉財団の助成と市の補助金など一千万円を掛け、昨年四月から、刺繍の欠損や絹地の裂けなどを修復した。

紙本六字名号帳は、縦九・六呎、横六・七呎。江戸時代の一七八七年に制作された。中央に朱で「佛」と、周囲には小さな草書で「南無阿彌陀佛」と無数に書かれている。

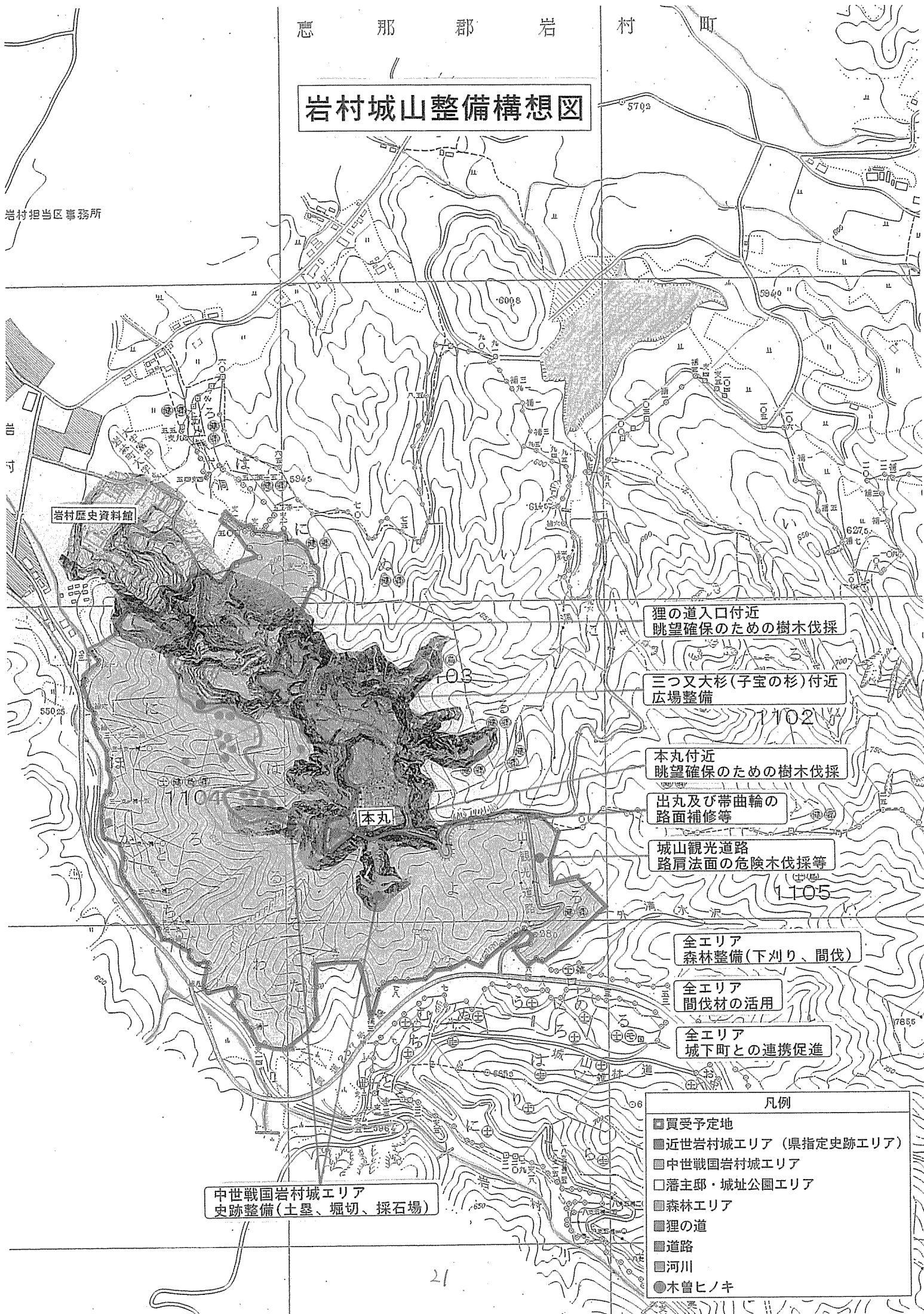
同センターでの公開後、恵那三十三観音霊場の春季公開帳に合わせ、十二月十八日に、盛巖寺でも公開する。

◎市生涯学習課 0573(26)2111

(生田貴士)

岩村城山整備構想図

岩村担当区事務所



- 凡例
- 買受予定地
 - 近世岩村城エリア (県指定史跡エリア)
 - 中世戦国岩村城エリア
 - 藩主邸・城址公園エリア
 - 森林エリア
 - 狸の道
 - 道路
 - 河川
 - 木曽ヒノキ